



## インドネシア大統領選について

北陸銀行 国際部  
バンクネガラインドネシア駐在  
山下 直人

## 1. はじめに

2018年9月23日よりインドネシア大統領選挙のキャンペーンが解禁されました。

投票日は2019年4月17日のため、半年以上に及ぶ長期のキャンペーン期間となり、白熱した選挙戦が予想されます。日本企業にとっても今後の経済政策の方向性が決まる重要なイベントとなるため概要についてご紹介します。

## 2. 大統領選挙について

インドネシア大統領選は、大統領と副大統領セットで国民投票により決定されます。

大統領の任期は5年とされており、最長で2期10年となります。2019年からは、同じく任期が5年とされている国会や州・県・市議会の議員選挙も大統領選と同時に行うよう決定されたため、インドネシア初の同時選挙となります。

## 3. 歴代大統領

ここで、インドネシアの歴代大統領についてご紹介します。

インドネシアでは代々軍出身者やエリートが大統領に就任することが多く、地方の実業家出身のジョコ大統領は珍しいケースと言えます。スハルト大統領以降は短期間で大統領が交代しましたが、初めて国民による直接選挙で就任したユドヨノ大統領は2期10年の任期を全うしました。

### (1) スカルノ大統領（1945年8月～1967年3月）

オランダの統治下から独立を宣言した初代大統領です。「指導される民主主義」と呼ばれる独裁体制をとり、欧米中心に外資排除の政策を進めました。その結果、多額の対外債務やハイパーインフレを招き、国民の支持を失っていきました。日本人である第3夫人は、日本でも有名になっています。（※1967年3月～1968年3月は、スハルトが大統領を代行）

### (2) スハルト大統領（1968年3月～1998年5月）

スハルトは軍出身の大統領であり、その体制は「開発独裁」と呼ばれ工業化を推進しました。スハルト政権では汚職や癒着が問題視され、1997年のアジア通貨危機により国民不満が蓄積し、辞任に至りました。

(3) ハビビ大統領（1998年5月～1999年10月）

元は航空機のエンジニア出身です。スハルト大統領の辞任により、副大統領から昇格しました。政党法の改正や議会の総選挙を実現するも、もともとスハルト陣営であったため、再選とはなりませんでした。

(4) ワヒド大統領（1999年10月～2001年7月）

インドネシア最大のイスラム教組織の議長であった人物です。国軍の政治介入や行政の腐敗是正を図りましたが、周辺人物の汚職問題等により罷免されました。

(5) メガワティ大統領（2001年7月～2004年10月）

スカルノ大統領の長女で、副大統領より昇格しました。憲法改正や民主化への取組等の方向性を示しましたが、明確な成果が得られず国民の支持を失っていきました。

(6) ユドヨノ大統領（2004年10月～2014年10月）

元陸軍出身者であり、インドネシアで初めて直接選挙により就任した大統領です。テロ対策や汚職撲滅に注力した他、アチェの独立運動を終結させました。任期中は経済成長率も5%程度を維持し、2期10年の任期を終えました。

(7) ジョコ大統領（2014年10月～）

家具の輸出販売会社経営から地方の市長、ジャカルタ州知事を経て、大統領となった人物です。庶民派の大統領をアピールしており、大統領就任後は貧困層の教育・医療費を無償化し、インフラ整備の加速や汚職の撲滅を進めています。

#### 4. 大統領候補者について

| 大統領候補者   | ジョコ・ウィドド(現職)              | プラボウォ・スビヤント           |
|----------|---------------------------|-----------------------|
| 年齢       | 57歳                       | 66歳                   |
| 経歴       | 元家具製造販売業<br>元ジャカルタ州知事     | スハルト元大統領の娘婿<br>エリート軍人 |
| 副大統領候補者  | マアルフ・アミン                  | サンディアガ・ウノ             |
| 年齢       | 75歳                       | 49歳                   |
| 経歴       | インドネシア最大の<br>イスラム教組織最高指導者 | 実業家<br>元ジャカルタ州副知事     |
| 9月時点の支持率 | 57.0%                     | 31.3%                 |

元は地方の実業家で庶民派をアピールするジョコ大統領に対し、プラボウォ氏は軍出身のエリートで家柄も良く昔ながらの強い大統領のイメージを強調しています。副大統領にはそれぞれの弱点を補えるように、ジョコ大統領はイスラム組織の重鎮、プラボウォ氏は若い実業家を選び、幅広い層の支持を得られるような体制となっています。

プラボウォ氏は、現職のジョコ大統領に対して言語力等外交手腕の不足や外国人労働者の増加と貧富の差の拡大を批判しており、労働組合の支持も得ています。その他には、ジョコ大統領が注力していたインフラ整備について多くの工事が遅れており、選挙までに成果が出せるかも注目されています。

インドネシアの調査機関であるインディカトル・ポリティック・インドネシアによると、9月時点の調査による支持率は、ジョコ氏57.0%、プラボウォ氏31.3%とジョコ氏が優勢になっています。今回の大統領候補は、2014年の大統領選と同じ構図となりましたが、その時もジョコ氏圧勝の予想に対し、結果は6%程度しか差がなかったため、今回も接戦となる可能性があります。

## 5. おわりに

現在、インドネシアは経済成長率こそ5%台を保っているものの、年初から続くルピア安や貿易収支の悪化により先行き安泰とは言えない状況にあります。どちらの候補者が大統領になったとしても、就任後は経済を回復・発展させるため様々な政策の実施が予想されます。中には日系企業が影響を受けるものも少なくないと思いますので、来年以降は特にインドネシアの法律や規制の変化について注目していきたいと思います。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**海外ビジネス情報**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp